

第5回ホスピ川柳 一次選考通過作品

株式会社 名優

作品	雅号
部屋ふたり最期の言葉ひとり言	奥の寄道
ひとすじの涙で別れ告げた母	風信子
朝がくる今夜がヤマを乗り越えて	トミスター
笑わない祖母が最期に笑った日	内山田穂子
蓋された思い出たちが溢れ出す	ヤスユキ
ありがとうあなたの声で聞こえたよ	かおりんご
これからもこの先もまだああ母よ	なにわ紳士
あなたの子で生きてこられて幸せです	風の旅人
ヒール音響く病院逝かないで	ake
長き夜は母の寝息が子守唄	華杏
「食べてるか？」問いかけるのは痩せた父	秋
ごめんねとそばにいることしかできず	水橋和月
渡し賃ないだろ？オヤジ逝かないで	kawase akira
はや十年靴玄関で父を待つ	夢糸
そばにいてそばにいるよねそばにいる	吉田凜太郎
八分咲き父を支えろまだ散るな	壊れたてのれでいを
戦禍なく母の介護ができる幸	ヘミング舞ウエイ
母の手はそれでも僕を撫で続け	よりとも
人間の芯を残して母は逝く	めめこ
生涯を誓った人と病室（ここ）にいる	ゆうゆうパパ
贈られた命生き切り送られる	ヨリコのおまけ
寝たきりの母が微笑む牡丹の香	まろん
伸びた髪切る音ずっと忘れない	今田健太郎
何度でも聞くよ疲れて眠るまで	テクノボー
まあだだよ祖父と最後のかくれんぼ	きりかぶ
アクリル板越しに最後に見た笑顔	まここちゃん
預かったものを返して母は無に	宮のふみ
その先を聞けずに逝った母の夢	まこっちゃん

作品	雅号
母が泣く孫の電話は祭りの音	ミー
手をぎゅっと握ってくれたまた来るね	ゆり
たくましき母が残した「ありがとう」	山岡恵光利
昨日友今日は娘の母がいる	みかん
病室の母は最後に草団子	白い鳥
おやすみと命の管を抜けなくて	黄昏小町
生きてきた母の手を取り生きていく	さびしんぼう
また来るねどなたですかと言われても	月見風
笑う祖母辛苦の全て脱ぎ捨てて	ぴよんきち
心にいる父との会話これからも	トシ
兄妹で母を支える足になる	ばたやん
痩せこけた腕に無数の注射跡	金剛明夫
シワの手でシワの手擦るいじらしさ	ひねた猫
迷惑を掛けてすまぬと父は逝き	となみ
息をのむその小ささに目を伏せる	ポンペ
「とうちゃん」と呼ばせて生まれ変わっても	わらび
「逝く」じゃない父のもとへと母は「行く」	つちのこ
ありがとう家族のように診てくれて	四元清路
笑ってな頼りないけど頑張るな	すぬきち
逝くな母そこ逝くなもう戻れんぞ	蒼海
眠る母聞きたかったな笑い声	高本かなた
さする手に落ちた涙にもらい泣き	ただっちゃん
最後には笑える介護ありがとう	砂狐
祖父よまだ逝くな約束果たすから	れもん
頑張ったやっと言えたよ最期の夜	くにたろう
引かれた手今度は引いて行く病院	のりのり
子の昔包んでくれた手を包む	松下弘美
どれほどに素直になっていく親子	悦
母が逝くそれでも母はここに居る	モンテカルロ
良かったねやっとな自由になれたんだ	ぴーちゃん

作品	雅号
懸命にさすることだけできたこと	いな作
こころざし名前呼ぶ声忘れない	パンプキン
幾年も炎天の墓耐えて立つ	モモカン
死ぬ覚悟一度はしたがまだ死ねない	スイスイチャン
父に我我に父あり子に我あり	Hash
もう十分だこの頑張りは忘れない	仙人A
眠ってるうちに逝きたい目で言われ	落花生
母の背で寝て育ち今母背負う	みのり
今思うあの時言っていたならと	スマトラトラ
今一番幸せだよと母は逝き	晴耕雨読
ありがとう祖母への父の初涙	黒ごまきなこ
恩返し添い寝し抱く母細し	傀儡師
さっきまで背に温もりの車椅子	もふもふ
介助する度に頭を下げる祖父	麗華（レイカ）
母が子をかあさんと呼ぶ細い声	もふもふ
介護して父とようやく仲直り	永坂浩洋
ベッドからあんたもからだきをつけて	うみ
生きたいと闘う君に生かされる	佐藤えいて
忘れない看護師さんの優しい手	野沢彩華
泣かないで母の最後の願い事	こすな
老いていく父母がわたしを置いていく	千葉
違う人、そんなことない母は母	こまちみち
絶え絶えに囁くように「もうええよ」	熊猫太夫
なぜ我が子せめて私が身代わりに	きゆみだ
言い合えるそんな日々こそ愛おしい	あんぴん
頑張れと言えるはずなく手をぎゅっと	糖質無制限
親よりも先に逝くのか我が兄よ	ブルちゃん
最後まで家族の事を思う父	ケロケロ
どちら様？まぶしい笑顔祖母は祖母	わをん
呼びかけに父の応えは握る手に	平松茂

作品	雅号
「若いのに…」その同情が胸を刺す	まおり
シワシワの手を握らせてまだもっと	ペンギンのいえ
母ちゃんよおれは今でも子供だな	ざわざわ
ばあちゃんの若かりし日を知る介護	金子歩美
墓参り次はおそらく迎える身	穴切暇人
お袋よまだ生きていか逝きたいか	ルーキー
亡き父に母を呼ぶなどただ祈る	赤坂朱美
残る日々笑って生きろ明日は来る	ぷるっぴ
タンポポと強さ比べてみたい春	あべっち
笑み浮かべ父に会えると母逝った	ころん
まばたきに今日も重ねる母の声	立夏
母見舞う十九の写真枕元	七夕
諦めて諦め止めて向き合って	智里
まだ痛い日に日に増える痛み止め	ペンギンとキリン
卯月だと父が言うならそれでいい	ナイチンゲール
おれの手をにぎり右ほほさする母	森のくまおじさん
いかないと言った母が今いきたい	牧野千春
いま父が昇って逝きました空よ	まちこ
ありがとうの言葉代わりにその笑顔	頼美
骨折を繰り返す母いとおしい	根本中堂
いつだって私の母はあなただけ	靴下は右足から
介護拒否明治生まれの気骨かな	いわさきまっさ
ベッドの母と温もり分けて日向ぼこ	桃太郎
余命だと余った命あるものか	こすもウサギ
穏やかな父に戻って十日生き	北風
ただ老いることの難しさを知りぬ	友常甘酢
杖持つ手昔繫いだあなたの手	まんまるふく
待っていてくれる人居り今日も行く	三四郎
泣いちゃダメ泣いたら母も辛かろう	ガイア
孫の顔僕の唯一の親孝行	はしゃぐ年子の心

作品	雅号
父が逝くそれでも今日も夜が明ける	美和
喋れない父がんばれと抱きしめる	よしじー
任せてねわたしが最後看取るから	ヨーダ
差し延べるためにあったと気づく腕	つきの
電話ごし母の声聞きふと涙	帆立の子
忘れていく母の確かな箸使い	休鷄
逝かないで他には何も望まない	ター坊ママ
還暦に米寿付き添う診察日	穂苅敏
今はもう「せめて」しかないやるせなさ	五十部智
起きてくれ父の背中をまた見せて	よしごん
手を取るよお家に帰るその日まで	トヨタヨタ
病室に響く母息子(おやこ)の二重唱	ドクトル
最後まで前をみつめて逝った父	風まかせ
介護され介護するより辛いかも	こまこま
いいかけて明日話すと母眠る	つぶ金
治りませぬ涙隠して母介護	奈菜子
また逢えるたとえ逝く日は違えども	たっちゃん
子に見栄は要らぬおむつで若返る	河内っ子
そっと息吸い込んで母星となる	つるのこ
ありがとう重みが違うこの言葉	川島そら
いつだってあなたはそばにいてくれた	伊藤一男
ずっと居る窓辺の蝶はきっと母	てっこ
最期くらい弱音をはいていいんだよ	ガブリータ
子に返り母は天使になっていく	ルーク
知ってたよ無言の中にありがとう	ママとこ
最高の人生だったばあが言う	ばあちゃんこ
孫を見て母の名を呼ぶ祖母笑顔	干し梅
看護師が急に優しいよいよか	宮川清柳
もういいよ家族のための呼吸音	ばろんさん
感情が消えて親子になれました	関根一雄

作品	雅号
最後まで親孝行をさせてくれ	命の番人
振り絞る会いたかったと父の声	えみりい
病室の前で笑顔を用意する	長谷川貴流
逝く前に伝えなければ「ありがとう」	ノンタン
在宅で一緒に住もう最後まで	むかいなだ
あの時の親の言ってたこの事か	岩太郎
「帰りたい」父の言葉を聞かぬふり	超捻転
母くれた命で母の命抱く	凜香
空見上げ自分のために深呼吸	チョコちゃんのママ
思っても辛いと出ないありがとう	きりこかぶ
聞こえたよあなたの手からありがとう	明日香
話せないけど手だけは離さない	よじ
するしないしない介護も思いやり	むっちゃん大好き
ありがとう言えない母の目に涙	山茶花
まだ逝けぬ困らぬように教えたい	向日葵
不意打ちはずるいよ父の「ありがとう」	水瓶座
頬寄せるむかし打たれた拳骨に	朝山ひでこ
まだ逝くなもっと話そう生きた日々	ヒロポン
もういいよ頑張らなくてももういいよ	むーむー
子よ逝くな母の命と引き換えに	井上右彩
まだ来るな父はあの世で母に言う	ゆずママ
病室の窓越しの空忘れない	ゆめかなえ
また来てと誰かわからぬ息子待つ	ゆーみん
もうすぐね父に会えると笑う母	はるやす
まなざしがありがとうねと伝えてる	りんママ
母に会う時間よ止まれ今ここに	ローリエ
手に触れる息ある今日を噛みしめる	月下の門
約束が違うぞ父よなぜ急ぐ	かぼくのかぼ
病院の窓辺手を振る母泣いた	ほにゃらか
筆談の母の心配まだ私	三龍

作品	雅号
あの頃の父へ時計は戻らない	月兎
抱き上げた母の軽さの重たさよ	かのカッチャン
駄々こねる母を宥める電話口	吉哉郎
「さん」付けで母の名を呼ぶ息子です	老人生（ろうにんせい）
お母ちゃんあなたの涙杖だった	中村登志子
思いより重いと言って見たかった	かずちゃん
バカ息子寄り添うだけが恩返し	唯人
臥すを診て気づけば臥して看られてる	ともきんぐ
畑で生き畑から呼ばれ畑へ逝く	松田忠二
あったかい声が嬉しい「お大事に」	揚げすぎのコロケ
ごめんなさい最期に言えたありがとう	ふじちゃん
治るよと気丈な声が潤む父	せきぼー
母だった記憶が欠けていくベッド	まどけい
父の意思聞きたくてただ知りたくて	ほーりー
今朝もまた「元気そうね」のつらい嘘	中村利之
生きているだけでやっぱり母は母	風のまつり
優しさを返してるだけ介護じゃない	鮫島千裕
わからずもいいの私が話したいだけ	未砂
うるせえな静かな声に目がかすむ	さとみ
介護とは老いを一人にしないこと	久美
昨日までいたのに今日でお見送り	せとか
花は咲く口ずさむ祖母あの椅子で	花
心配をするなど母が無理を言う	彗星
祖母を看る妻の白髪に只感謝	清詞薫
忘れてもまた覚えてねひ孫の名	ぼの
「歩けるよ」母に手を貸す春が来た	あんどらごら
つながれし手のぬくもりよ消えないで	みどり
この後悔残してくれてありがとう	丸山和成
母と子に戻れて最期母は子に	みっちゃん
帰りたいあなたのための家になる	葉火

作品	雅号
みんな泣くこれはあなたの優しさゆえ	うたほ
忘れても思い出消えぬばあと孫	どら焼き
忘れない真摯に生きるその背中	まんまる
それからの介護日誌の広き白	ちゅんすけ
無理をして介護続けて介護され	美穂
おじいちゃん予定日すぐよ逝かないで	ようママ
死の前にあとは頼むよ母の声	中年男性
分かってるけどやっぱり逝かないで	うきエリ
幸せは父母の介護の出来ること	岡田孝道
俺よりも先に逝くなと白寿父	湯快爺上田
いつの日も母は私の母であり	アーモンドの花
次もまたあなたのもとに生まれたい	エマニュエル
最後まで最期の日にもそばにいる	瑠珂
言い出せぬ母には家に帰れぬと	小原久美子
今更を今からに代え春来たる	三宅加代子
会うたびに必ずこぼれ隠れ泣く	あざらん
歳重ね台本にない風が吹く	三宅隆吉
遺言は延命しない父は逝く	RON
「怖いんだ」何もできず手をにぎる	ミッチー
休み明けいつもの笑顔そこに無く	しょう
祖母のいない祖母の家まで歩く朝	大野博司
全介助俺にできないありがとう。	谷口進
無理させた母が私に「無理するな」	やすよ
ありがとうまだ言わないで逝かないで	タミー
大好きよもっと言いたい伝えたい	けんけん
こんなにも小さくなくても父は父	あおぞらスキップ
認知症でも忘れない子どもの名	今とかこ
久しぶり笑う母見て泣く私	阿部史太郎
「突然」が人生最後の教えなり	おさんぽ
されるよりしてる幸せ知る介護	浮世っ子

作品	雅号
親孝行もう遅すぎた親不孝	アキバ
母の恩報いるまでは逝かせない	桐の花
身を削り命を削り母が逝く	ミキちゃん
手術室向かう私は祈る人	せとみかん
はじまりは最後に押した車椅子	みっちゃん
死を前に一人一人に語る祖父	チャッピー
ごめんねと謝る相手もういない	ゆきやなぎ
何おもう自宅でひとりこの世去る	ひなみ
おばあちゃん貰った愛は忘れない	ドラゴン
「ごめんね」と、言うなよこれは恩返し	ちえけ
やすみなよ小さくなった母の背に	kuro
ありがとう最期くらいは言わせてよ	よしき
病んで知るいつもの朝の幸せよ	えいこん
涙跡そっと拭った脱脂綿	日向大海
手を握るただただ握る細い腕	未央柳
忘れない父さんの顔別れの日	あきのかぜ
背負い過ぎ丸い背中が物語る	はっちゃん
赤ちゃんに戻って眠る旅立ちよ	春風
母の手を握るぬくもりかわらない	三食豆腐
車いす母の白髪手に触れる	宮川勉
死んでいい今日も完食まだ生きる	きおお
泣かないで先に呼ばれただけだから	ちんぐ
親孝行させて下さい私にも	実在主婦
できること父の目見つめ手を握る	ゆうき
達筆の父ハガキが届くぐちゃぐちゃの	むうみん
無名でもいい父がいた母がいた	武田悟
先生にお大事にと云う患者さん	伊藤晴夫
手のひらになぞり伝えた「ありがとう」	太郎
爪たててしがみつくと手が生きたいと	MD
聞く耳を持てば聞こえる母の声	雨玉

作品	雅号
ありがとう先に言わせて母に詫び	かきくけ子
折れそうな母を真綿で抱きしめる	家具屋姫
灰色の此処にあなたが居ない朝	茶町
さいごだよはっとするほど真剣な声	おんせんたまご
伝えたいそこにいるのに遠いんだ	沖村亜美
歩けない母が見送る窓辺かな	えぺ
忘れない義母が託した妻のこと	チバちゃん
慎重に慎重に読む瞼の意	新屋洋子
病床の母の背伸びて子が嫁ぐ	拓ちゃん
後悔も公開もせず母は逝く	私はだーれ
背負われた母を今ボク背負っている	おじゃすか
お弁当今なら分かる母の愛	みゆか
泣かないで迷惑なんて思わない	ともたん
徘徊の父をピタリと母の勘	ぽっくん
横たわり子のわがままを生きた母	盟主クサイ
「ありがとう」戦士天使に戻れる日	げん一路
病んで尚「母」という名の母でした	天乎
父ちゃんよすまん介護の紙おむつ	浅野公文
母を見る季節は母と見たい春	さくら子
枕元頑固親父の目に涙	平々凡々
後悔が先に立たぬと今知った	かまぼこ
声のない声で何度も子の名呼ぶ	川野あゆ
生きていることが立派な生き様だ	黄くま
まだ元気握り返せる握る手を	耕直
母ちゃんのぬくもりを背に初茜	ふーみん
何度でも聞こえる限り呼ぶ名前	のん
強盗は俺が倒すと父逝きぬ	ねこ 77
独り言増えて自分とお友達	藤楽鍵次郎
次はいつ来てくれるのと今日も母	ビリケン真
「また来てね」何度でも言う「また来るよ」	伊藤ルナ

作品	雅号
死はサ行遺した声と作業服	岩中幹夫
じっと見る目が言っている頼んだぞ	無色
病院で妻になる人母に見せ	河合ひろたか
卒寿過ぎあと十年と父が言う	小川喜洋
いつのまに小さくなった父の影	ゆりの花
孝行をさせてくれずに逝く母よ	安田蝸牛
生きるんだ心臓の音よみがえる。	シバルン
これほどの笑顔にさせる孫と猫	内木場拓史
伝えたい言葉溢れて止まらない	きなこもち
あべこべよ術後の父に励まされ	千舟
生きたいと孫の子に会う夢語る	優心
「オヤジ」から終（つい）に呼べたよ「お父さん」	なおきん
引き揚げの苦勞語らず天に逝く	山本明德
泣き明かし澄んだ青空父のごと	ゆり
「ありがとう」ってお母さんそれは逆	燕子花
間際まで母の温もり息づかい	幸島
匙に盛る母に習った母の味	カラスの行水
握る手が無言で語る頑張れと	ふじさん
得よりも徳を悟らせ父が逝く	やーくん
ありがとう伝えきるまでまだ逝くな	おみや
いま一度あなた言わせてありがとう！	渚
「ごめんね」と「ありがとう」満つ枕元	はやぶさ
思い出は、忘れたくない、忘れない	はるりんこ
この思い届いてるかなおばあちゃん	ひので
母さんはいつも春風そこにいる	カブトムシ
「幸」の字も「一」つ欠けたら「辛」になる	桜貝
母生きよ子らの願いへただ生きよ	湘路
全体重母をささえて知る軽さ	まゆみん
「なぜ一人先に逝くの」と逝った母	瀬戸の王子様
何よりも温かいのはおかんの手	トミー

作品	雅号
父を思う母置いて逝けぬと涙	あいうえ男
ありがとうただじっと見てありがとう	かるがもえむ
痩せてゆく妻に寄り添うだけの僕	まーさ
「逝くな母さん！」連呼連呼の枕元	有明
忘れないで忘れるものか忘れぬ	松風
横になる父が私の盾になる	瀬戸ピリカ
百歳におたんこなすと叱られる	ヒジキ
咳しても一人じゃないと知った夜	桜小町
思い出に棲む母を呼ぶわらべうた	つべる
無理するな無理して父がいつも言う	ミツバチとし
言っていた父に「ごめん」を今、父が	馬場和義
聞こえるよ声なき声のありがとう	ハルル
これからも続けさせてよいけないで	ペンギン
もう二度と聴こえないのか父の声	とも
維持装置母の鼓動が光ってる	どん陣
へそくりのありかを知らせ逝きし母	あこぼん
「まだ平気」つらいと言わぬ今も「母」	ぴんくいろ
物忘れ介護の母に注意され	おさぼう
病床の父の手擦る不肖の娘(こ)	だんでらいおん
「頑張れ」と余命知らずの父握手	こさち
母病んで弱さの強さ見せられた	ピアノカフェ
約束が違う起きろよ起きてくれ	中年やまめ
この峠越えろと祈るただ祈る	イーリー
そこにいて顔見るだけでいいんです	またはち
「眠たい」の最期の言葉忘れない	sachi
在りし日を来世に想うまたいつか	生猫(なまねこ)
日がさして白寿に近き母の部屋	ユーミー
車椅子押されながらも妻強し	たむぞう
聞こえ来る荒い呼吸に母の声	なまはげ
「ハンカチは持ったか」の声ベッドから	長谷川千流

作品	雅号
最期までやさしい嘘を母はつく	ちく
忘れないモニター越しの母の顔	ダダ
こんなにも悲しい母の誕生日	逆ペリカン
その口でまた叱ってよお母ちゃん	花太郎
泣き言を言わない父が泣いている	東洋はじめ
生かされているということ学ぶ俺	いるか
胸騒ぎ静かになっていく母に	あおちゃん
今思うあの日の母は今のわたし	坂主明子
最期まで母よあなたは強かった	すずらんしきぶ
車いす小さくなった父乗せて	みゆう
ここにいるただそれだけでありがとう	まる
病棟にきのうまで居たはなし好き	カサブランカ
この家に戻るねと乗る救急車	かつら
花見えるように枕を高くする	三郎
ありがとうまた母の子になりたいな	ヒロビンソン
此処にいるよ遠く見つめる瞳のそばに	おせつ
恋したの今日は二十歳の母が言う	小川穂禾
母と子に戻り途切れるあ・り・が・と・う	まびまび
懸命に生きた姿を見届ける	mdms
来世でもお母さんって呼ばせてね	ミファ
母よ息よこの世の空気吸い生きよ	花一匁
会うたびに愚痴を言う母もういない	のべぎお
「生き抜いた」そんな言葉が似合う母	けんちゃん
満開のさくら傘寿の母の舞い	祥雪
ありがとう言葉なくても伝わるよ	かばママ
楽にして母の願いに子は涙	えるりんママ
お願いです最期の時まで生きていて	きき
母の意志守る私は人殺し	河村澄子
戸惑いを受け入れている母強し	茜雲
厚い手の皮膚はわたしのためだった	桃山

作品	雅号
咳き込み音謝らないでわるくない	なみこ
いなくなる前に飛び込め俺の中	マッチ坊
今も尚最期の笑顔病床に	後川龍之介
つらくても笑顔で話す父である	さいがわWWW
親不孝詫びて握る手まだ逝くな	畦津誠一郎
幼い日受けた恩義を今返す	しまうま
訪問日遅れて叱る母でいて	かなたじいじ
忘れたと涙する母覚えてる	千恵子
もう一度祖父に会いたいもう一度	ゆい
「もういいよ」父の寝言にむせび泣く	稲岡俊一
生きている母のまだいるうれしさよ	白石雅義
駄々っ子のように泣くなよいや泣けよ	松庵
頑張った負けず嫌いが最後まで	エメラルド
精一杯生きた証しにこの笑顔	澄海
在りし日の母振り絞るありがとう	たまごん
まだいてよ昔のようにしかってよ	コボ
親は子に子は親になる窓の月	ごん助
生き抜いた優しい顔をそっと撫で	おーさん
面会よゆっくり行こう手を繋ぎ	はまやんやん
眼差しは今もしっかり生きている	ともさん
病床の母の口癖気いつけや	フダさん
腕相撲一度も祖父に勝てぬまま	タロ
つなごうよ小さな母が手をからめ	ジゴさん
まだ逝くな天仰ぐ俺ただ無力	一步二歩
祖父が手招き見えない迎えまだ来るな	なっこう
血を分けた子が今、母を救うとき	大は小を兼ねる
生きてくれその一言で今生きる	しょうだん
初めてのわがまま、もっと生きたいと	ぽってんてん
眩いた豊かに逝けよ妹よ	申酉戌亥
戻りたい写真の親父杖がない	ゆうちゃん

作品	雅号
過去形で礼を言うのはまだ早い	まこもじやる
あの時に言えば良かったありがとう	桜
晴れてくれ父に最後の冬銀河	ごん太
主治医きて父は青春語りだす	クーちゃん
痩せ細る手に擦られる夜更け過ぎ	Rio
「母ちゃん」と呼んだら顔が母になる	ちずちゃん
歩きたいあなたの杖に僕がなる	谷智史
粥三口全部食べたと母の笑み	風
ありがとねその一言に涙出る	ガラムマサラ
忘れない命繋いだあの日から	さきさき
ちゃんと食べ母の一言忘れない	鉄五郎
母いつも笑顔で僕に「あなた誰？」	よっさん
精神科話す相手が欲しいだけ	久我山柑菜
忘れてもきっとどこかで覚えている	ベルンカステル
我が老いを見ておけと言う父の愛	ドラピー
何もかもしっかり準備して逝った	かじさ
伸びている爪・髪伸びて生きている	ひでやん
今はまだ泣けない涙会いたいよ	あらいぐま
どうかまたふざける笑顔また見たい	ぱーるママ
手のひらであなたの苦痛受け止める	なぎ
見届けた逝き方、胸に生きていく	echelon
病んだ時握ってくれた手を握る	すかい
父の目が口ほどに言う「ありがとう」	星宿鏡
泣くときは俺の死のとき父が言う	ばあす
寝る前に本気で願うまた明日	こぼやし
延命は要らぬと語る潔さ	龍飛
死にたいと言ってくれるな守るから	そんちく
口元に笑顔が咲いたありがとう	ちょこっとチョコ
あの星になると泣いたねこの窓辺	相野正
起こすたび父の右手がしがみつく	TKSH

作品	雅号
言霊を残して逝ったありがとう	助六
先に逝け俺も後から追いかける	睡魔～
花の名を言えた日の母うれしくて	ハミングバード
伝えたいガラス越しでもこの気持ち	今井純生
おにぎりを食べる事なく母は逝く	てるてる
また来てね見送るひとみうるんでる	ナンサン
過ぎたこと忘れるんだと励まされ	正次郎
こんなにも軽かったのかなあ母さん	ボヤキおやじ
泳げない三途の川が渡れない	デシ
そばにいるどんな時もと夢枕	くぷいくん
いつのまにそんなに細く母の肩	たまいぬ
さよならは言わずに逝くぜまた会おう	しなもん
あの花は咲いただろうか母の春	そめい
歩けたよ明日は向こうの道路まで	ろんちゃん
父忘る日は一日もない十年	モクレン
目を開けぬ母に届いたきみの歌	じゅんじゅん
潤む目と共に消えてく希死念慮	烏蘭
病棟に足音がするあたたかさ	藤井京子
これからよまだ増やせるよ笑い皺	各下奈磨江
お迎えは早くと母の薬漬け	中澤仁捷
死にたいと言うな娘のため生きて	祐宇
白髪の母が涙し死にたくない	菅悠
「人生を卒業する」と笑う父	天和
親孝行もすこしさせて頼寄せる	看護感謝
長生きを生きるしかないどう生きる	米太郎
お父さん最期に返事してくれた	わこわこ
電源の切れるがごとく旅立てり	浮遊人
電車代まだ渡そうとする卒寿	PON5
頑張って元気出してね母は言う	働き蜂ちえちゃん
子の顔に母もどりたる天瓜粉	竹田秋治

作品	雅号
伝わるよ声じゃなくてもその笑顔	カトケン
わかってるずっと一緒にいたからね	島根のぽん太
突き刺さる無理に造ったあの笑顔	明けの明星
蒼穹に母を乗せてる車椅子	よしりん
俺よりも齢は上かと聞いた父	上の空
母の目が子供の私探してる	えみこ
祖父語る 100 回聞いた武勇伝	怪傑もぐり 33 世
繋いだ手これが最後と言わせない	かをり
あの世にはまだ行かないで話したい	みい
母ちゃんに百万回のありがとう。	純
生きる意味教えてくれたくるま椅子	きら星
亡き父の願い介護の母笑顔	木立慈雨
父臥してひとりぼっちのトラクター	いーなん
母の手を握る、思いっきり握る	ほり・たく
手術前小春日和よ我に來い	カワサン
鉛筆のように床臥す母に添い	江戸川散歩
あの頃の家族写真は色褪せず	浦城亮祐
寂しくて寂しくないと繰り返す	さごじょう
半熟となる日溜まりの椅子の義母	カンちゃん
母の日に生きて笑って母がいる	プーマー
頑強な父が手合わせ拝む人	吉田紫紅
生きているただ生きている生きている	雨音

以上 500 句 一次選考通過